

2025年度（令和7年度）データサイエンス副専攻自己点検・評価結果報告書

2026年4月

データサイエンス副専攻運営委員会

1. データサイエンス副専攻について

デジタル社会の「読み・書き・そろばん」と言われるデータサイエンスについて、岐阜協立大学では、2023年（令和5年）4月から、学部を問わず、卒業後の社会で必要とされるデータサイエンスの活用の基礎力を育成すること、データサイエンスの進歩による社会の変化、技術の革新に対応する柔軟な力を養うことを目的として、「データサイエンス副専攻」をスタートしている。これに伴い設置された、データサイエンス副専攻運営委員会において、改善に向けた取組として毎年度、自己点検・評価を実施している。

なお、本学ではデータサイエンス副専攻で展開している多様な科目群のうち、「情報リテラシーA」「統計学」の2科目を、データサイエンスのリテラシーレベルの科目と位置づけ、文部科学省が推奨する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に、教育プログラム「データサイエンス副専攻リテラシーレベル」（以下、リテラシーレベルという。）として2024年度（令和6年度）に認定を受けている。

2. プログラムの履修・修得状況

<データサイエンス副専攻（2023年度入学生以降）>

【2025年度（令和7年度）履修者数等データ】

2025年度						
科目名	受講対象者	履修者数	修了者数	履修率(%)	単位取得率(%)	
	(5/1 現在)	(人)	(人)	(履修者数/受講対象者)	(修了者数/履修者数)	
入門	情報リテラシーA	必修	345	303	—	87.8
	情報リテラシーB	957	165	117	17.2	70.9
	統計学	957	119	100	12.4	84.0
	数学	957	96	86	10.0	89.6
	経済データ論	138	40	35	29.0	87.5
	特別講義 (データサイエンス)	—	非開講	—	—	—
中級	経済統計論	150	11	10	7.3	90.9
	計量経済分析	82	11	9	13.4	81.8
	ビジネス表計算	457	80	61	17.5	76.3
	データ科学	375	42	38	11.2	90.5

	データ分析Ⅰ	144	36	18	25.0	50.0
	医療情報統計学	108	61	56	56.5	91.8
	医療情報統計学演習	108	61	56	56.5	93.4
	特別講義 (データサイエンス)	—	非開講	—	—	—
上級	データ分析Ⅱ	77	1	1	1.3	100
	データ解析	77	23	19	29.9	82.6
	特別講義 (データサイエンス)	—	非開講	—	—	—

<データサイエンス副専攻リテラシーレベル（2024年度入学生以降）>

2025年度					
科目名	受講対象者 (5/1現在)	履修者数 (人)	修了者数 (人)	履修率(%) (履修者数/受講対象者)	単位取得率(%) (修了者数/履修者数)
情報リテラシーA	必修	22	14	—	63.6
統計学	674	31	26	4.6	83.9

【プログラム累計修了者推移表】

区分	学部	2024年度	2025年度	合計
リテラシーレベル	経済学部	20	42	62
	経営学部	17	31	48
	看護学部	5	13	18
	合計	42	86	128
データサイエンス副専攻	経済学部	2	4	6
	経営学部	1	7	8
	看護学部	1	0	1
	合計	4	11	15

開始3年目である2025年度（令和7年度）のデータサイエンス副専攻を構成する科目の履修者数等の状況は、上記の表【2025年度（令和7年度）履修者数等データ】のとおりである。上記科目のうち、「情報リテラシーA」は全学部で卒業必修であり、それ以外は選択科目である。そのため「情報リテラシーA」以外の科目は、履修率が30.0%未満と「情報リテラシーA」に比して低い傾向にある。また、「情報リテラシーA」を修得し、かつその他の科目を1科目修得した者は98名、2科目修得した者は27名、3科目修得した者は18名、4科目修得した者は3名という状況である。また、2年次以上の学生は情報リテラシーA その他の科目を1科目修得した者は118名、2科

目修得した者は156名、3科目修得した者は72名、4科目以上修得した者は56名という状況である。

これらのことから、「情報リテラシーA」以外の科目の履修率、単位取得率を向上させることがデータサイエンス副専攻全体の課題といえる。

2025年度（令和7年度）のリテラシーレベル修得者数は128名/674名（19.0%）、データサイエンス副専攻修了者数は11名/957名（1.1%）となった。

リテラシーレベルはこのような履修・修得状況であり、前述のとおり、「情報リテラシーA」は全学部必修科目となっているため、「統計学」の履修者数を増加させることが課題である。

3. 学修成果

データサイエンス副専攻全体で、「卒業後の社会で必要とされるデータサイエンスの活用の基礎力」、「データサイエンスの進歩による社会の変化、技術の革新に対応する柔軟な力」を身につけることを目標とし、その導入であるリテラシーレベルにおいては、主にデータサイエンス活用の基礎力を育成することを目的としている。

受講者に対しては、科目ごとに「授業アンケート」を実施し、これにより学生の理解度、興味関心等を把握している。

これらの結果をもとに、科目担当の専任教員を含むデータサイエンス副専攻運営委員会において、学修成果の検証を行い、授業内容・授業方法の改善を図っている。

4. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

副専攻を構成する科目ごとに授業アンケートを実施し、学生の理解度を把握している。

リテラシーレベルの科目に注目してみると、授業内容を理解できたかを問う設問で、「情報リテラシーA」では全クラスにおける理解度の平均は87.8%（4点満点換算）となっている。また、「統計学」では77.5%の学生が同様の回答をしている。

また、「学生が理解できているかの確認をしながら授業が進められているか」の設問から、「小テスト、課題等の実施」「過去の授業の振り返り」等の方法を用いて、理解度を確認しながら授業が進められていることが分かる。

5. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

上記4のとおり、副専攻を構成する科目ごとに授業アンケートを実施しており、設問内容から、興味・関心が持てるようになったかを把握している。

上記4と同様にリテラシーレベルの科目に注目してみると、興味・関心を問う設問において、「情報リテラシーA」で全クラスにおける興味・関心の平均は83.3%となっている。「統計学」では75.0%の学生が同様の回答をしている。

後輩等他の学生への推奨度は明示的には調査していないが、上述の授業アンケートの設問や自由記述式のコメントから、推奨できると評価している学生が多いと考えられる。

6. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

データサイエンス副専攻は、2023年度（令和5年度）から開始しており、これを構成する科目のひとつ、「情報リテラシーA」は全学部必修科目となっていることから、履修率（累積）は上昇していく見込みである。なお、2026年度（令和8年度）には本専攻は4年目を迎える。他方の選択科目「情報リテラシーB」「統計学」「数学」などは、開講年次以降の学年においても履修可能であることから、新入生への周知や授業改善、学修支援の取組を充実させるとともに、2年次以降の学生へも周知等の取組をすることによって履修者数、単位取得率を増加させることが可能である。

7. 学外からの視点

修了者を輩出するのは2026年度（令和8年度）卒業生からとなるが、現在も継続して行っている卒業生アンケートや就職先企業等へのアンケートなどに、当該副専攻修了者に対する評価、活躍状況などをたずねる質問項目を設けることによって、学外からの評価等を得る予定である。

さらには、就職先企業等へのアンケートには、データサイエンス副専攻の教育内容等に関する質問項目も設け、産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見を得、プログラムの改善に活用する予定である。

8. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

各講義において、数理・データサイエンス・AIの身近な活用事例や社会の実データ・実課題を用いて学生の動機づけを図っている。

リテラシーレベルの「情報リテラシーA」では身近な活用事例の紹介を拡張し、「統計学」では実データである官庁の統計データを用いて学ぶことで学ぶ楽しさや意義を理解できるよう取り組んでいる。

9. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

データサイエンス副専攻運営委員会において、学生の修了状況や、授業アンケートの分析を行い、「分かりやすさ」の観点から教材や授業実施方法の改善策を検討している。また、定期的に授業担当教員へのFDを行うことにより、授業の水準の維持・向上を図っている。